

# 自治体の課題と シェアリングエコノミー領域事例



シェアリングエコノミー（共有経済）ってご存知でしょうか？ 2016年11月多久市は、シェアリングシティ宣言を行いました。とはいえ聞きなれない、シェアリングエコノミーによって多久市がどう変わるのかをご紹介します。

## シェアリングエコノミーとは

昨今の日本は、ICTの多様化で、モノや時間などを「使い捨てる」時代から、使われていない遊休資産を「共有する」ことができる時代となりました。これは、互いの利点を高め、弱点を補い合う画期的なことです。シェアリングエコノミーはインターネットを通じて、これまで行ってきたさまざまなサービスをシェア（共有）しながら、活用することで、豊かな「まち・ひと・しごと」を創生します。

これまで身近な人との間でのみ成立していた地域共生文化やモノの貸し借り文化“SHARE（＝シェア）”が、民泊の「AirBnB」やライドシェアの「Uber」などの企業と協力することで、時間・空間・立場を超えることのできる全く新しい共有体験を生んでいます。

## ～シェアリングエコノミーを推進します～

多久市では、この「共有するサービス」＝「シェアリングエコノミー」を推進することで、市民のみなさんが活躍し豊かに暮らせるまちづくりを進めます。

お互いのニーズをマッチングする（つなぐ）ことは、双方の利益につながります。経済効果としては、収入が増えることだけでなく、認識が深まることで他人から感謝されたり、人とつながったりすることで「やりがい」が湧いたり、市民満足度の向上も期待できます。

新しい経済であるシェアリングエコノミーをみなさんに理解していただき、いち早く活用していくことで、ICTを通して、市民満足度の高いまちづくりに活かします。

この取り組みを進めることは、5年後、10年後の将来に向けて、大切な資源となる可能性を多く含んでいます。

